

旅行者主導型コンテンツとしての「猫島」の観光動向や課題と島民・行政の対応実態 —「猫島現象」を活かした適切な離島振興に向けて—

正会員 ○青木卓也*
正会員 川原晋**

コンテンツツーリズム 猫島現象 観光活用
動物管理 離島振興 観光インパクト

1. 序章

1.1 はじめに

離島振興において、島固有の資源を活かした観光が期待されている（海津 2013）一方で、島によっては外部からの観光需要をうまく活かせない状況（西川 2011）があり、さらには観光客の負荷による住民生活の影響も指摘されている（宮崎 2015）。小規模な離島においては、観光インパクトをいかに適切な離島振興につなげるかが課題になっていると考えられる。

一方、近年 SNS の普及によって、地域側の意図しないところで旅行者が地域資源を発掘し多くの人が訪れるようになる動きも起こっている。この「旅行者主導型の観光現象」に対する地域の受け止め方の議論はコンテンツツーリズムの枠組みで岡本（2012）を中心に行われてきたが、アニメ聖地以外でも地域側の意図しない形で注目される観光現象が起こる可能性があることが示唆されている。

本研究では、その事例の1つとして「猫島」に着目する。近年、「猫島」といった愛称で呼ばれ、SNS 等で発信されることを通じて、離島地域側が意図せずに多くの観光客が島を訪れる現象が日本各地の離島で起こっている¹⁾。この現象を「旅行者主導型の観光現象の一例」とであると捉え「猫島現象」と名付ける。

以上の2つの視点から、本研究では、小規模な離島が、離島地域側の意図なく旅行者からの注目を受けた場合に、地域が主体的にこの猫島現象を活かして離島振興や観光活用を行うための知見を得ることを目的とし、①「猫島現象」が起こった際の住民（や行政）の対応の状況、②特に、猫という観光資源の管理の実態、③「猫島現象」を適切に離島振興に活用できていると考えられる島の発掘と工夫点、を明らかにする。

1.2 既往研究の整理と本研究の特色

本研究は背景で取り上げた 1) 離島の観光の期待と課題を論じた研究と 2) 旅行者によって価値づけがされるコンテンツツーリズムの研究に加え、3) 人と動物が共通の場で生活している環境における動物資源の管理・観光活用事例を扱った研究の3領域にまたがるものとして位置付けられる。

特に 3) 動物資源の管理・活用の研究にあたっては、今回取

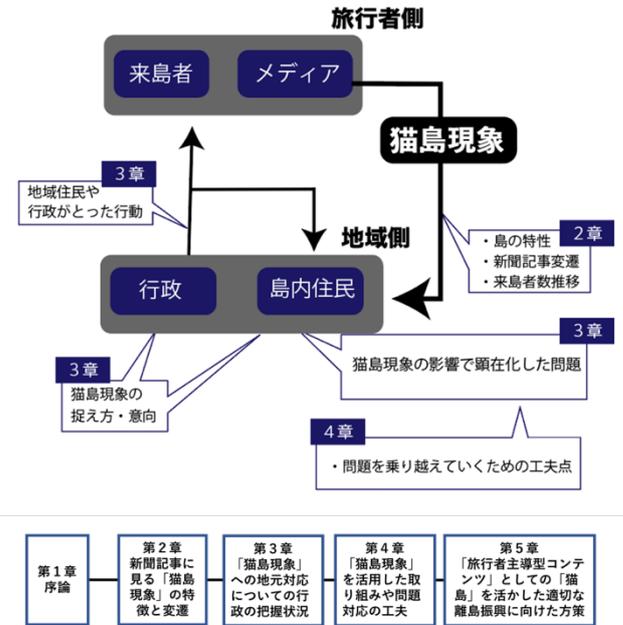


図1 調査の枠組み

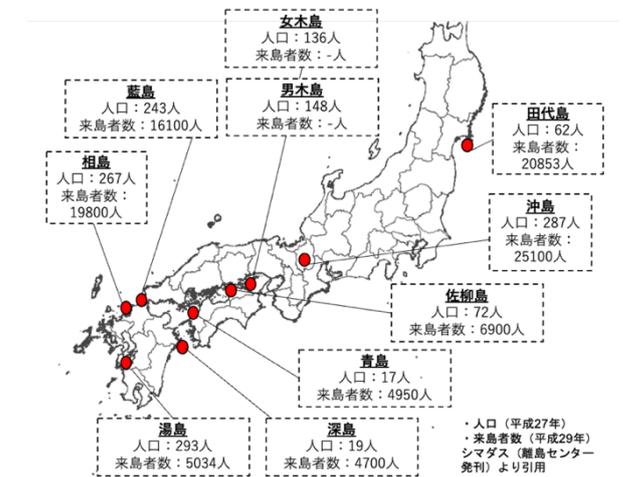


図2 調査対象とした猫島とメディアで話題の離島

り上げる状況が特殊環境ということもあり、類似環境における研究は白柳（2010）による田代島の猫観光の事例と渡辺（2014）による奈良のシカの事例にとどまる。

本研究の新規性として、①観光インパクトが大きい離島

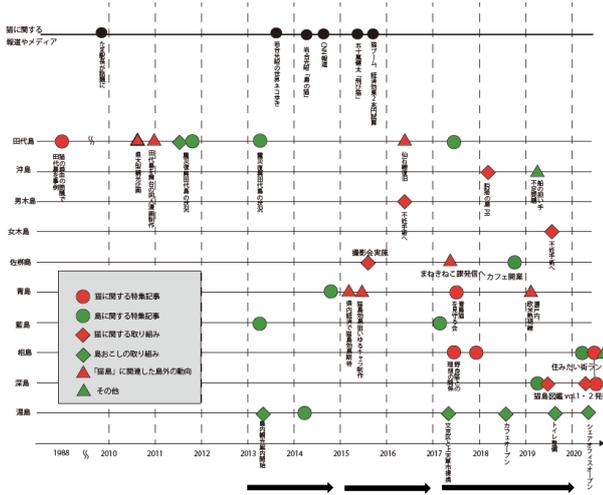


図3 各島の猫島関連の新聞記事の内容と掲載時期

表1: アンケート設計

調査内容	質問項目	質問項目設計の仕方	回答の仕方
①メディアや旅行者の行動変化	「来島者数（確認の意味を含め）」「行政に島観光に関する問い合わせ」「行政に猫に関する問い合わせ」「メディアの猫に関する取材」「移住希望者の相談」	2章新聞記事や先行研究より想定する効果指標を測定	それぞれに対して「増加」「一時増加」「減少」「変化なし」
②「猫島現象」の影響で顕在化した問題	旅行者主導の問題: 「1.移住者をめぐるのトラブル」「2.来島者による島の猫管理に対する批判」「3.来島者が私有地に入ってしまうなどのトラブル」「4.来島者によるゴミの投棄」 需要対応の問題: 「5.来島者が食事できる飲食店不足」「6.宿不足」「7.地域にお金が落ちるための体験商品や土産の不足」 猫資源管理の問題: 「8.猫の餌代・医療代負担」「9.来島者が餌をあげすぎたことによる猫の増加」「10.糞尿などによる衛生問題」	先行研究から「猫島現象」において「地域側が旅行者をコントロールできない問題(略:旅行者主導の問題)」「観光需要を活かせない問題(略:需要対応の問題)」「猫資源管理の問題」の3つの問題が大きく存在すると仮定し、新聞記事での話題から、取り上げられていた問題を抽出し、KJ法を用いて10の詳細問題点を再整理した	それぞれに対して「実施している団体」と「取り組み内容」
③「猫島現象」を機に地域住民や行政等がとった行動	観光に関した取り組み: 「1.猫目的の来島者をターゲットに含んだツアーや体験」「2.来島者が休憩や交流をすることを目的とした休憩スペースやカフェ」「3.猫関連のお土産や食事メニューといったものの開発・販売」「4.島の猫を紹介し、猫島としてPRする冊子などの制作」「5.猫目的に来訪する人向けの看板の設置」「6.その他」 管理に関した取り組み: 「7.猫の餌やりなどの世話」「8.猫の問題に関する協議を島内外で調整」「9.その他」	②と同様に、2章の新聞記事の内容から、猫島現象後に地域住民や行政による「観光に関した取り組み」「猫管理に関した取り組み」を抽出し、KJ法を用いて9の詳細問題点を再整理した	それぞれに対して「肯定的」「否定的」「中間」
④住民や関係主体の「猫島現象」の捉え方とその要因	行政としての方針 島内に住む地域住民や島内で事業を行う事業者の見解 (あれば) 島外にいる市町村内事業者の見解	2章新聞記事・プレヒアリングを通して3パターン設定	

地域における「旅行者主導型の観光現象」に着目している点、②現象把握だけでなく、この現象を活用して地域振興を目指した取り組みに着目した点が挙げられる。

2, 新聞記事に見る「猫島現象」の特徴と変遷

第2章では新聞記事を用いて「猫島現象」が起こった島を抽出し、基礎的な状況を明らかにした。Google 検索で「猫

島」を検索した際に上がってくるトップ10のブログ記事を閲覧し、そこで紹介されている島を23抽出した。さらに大手新聞社2社のアーカイブで新聞記事を検索し、実際に「猫島」で「観光客が増加している」と話題になっている10島を抽出した(図2)。

抽出した島の記事の内容と来島者数の変遷を整理する。

「猫島」として最初に注目された田代島以外の島は2013年以降、少しずつ注目され始めた(図3)。島内外で猫を活かした動きや島の特集が取り上げられる中、「観光客の課題」「猫の管理の課題」も取り上げられた。また、直近10年の来島者数のデータを対象自治体より提供してもらい、推移を確認したところ、観光客が増加していく流れが確認できた。

3, 「猫島現象」への地元対応についての行政の把握状況

第3章では、先の10事例の自治体を対象に、「猫島現象」の影響で顕在化した課題と行政の対応、観光活用の状況を把握するためにアンケート調査を実施し(表1)、6自治体から回答を得た。特に行政の意向と顕在化した課題に着目すると、「猫島現象」が生じたことによる観光客の増加、メディアの報道、島観光・移住希望や猫に関する問い合わせなどの盛り上がりに対し、過剰な餌付けによる猫増加、猫の糞尿による衛生環境悪化といった「猫資源管理」の必要性、私有地立ち入りやゴミ投棄といった住民の生活環境悪化に加え、来島者による猫の管理の批判といった「旅行者主導」による影響の課題が共通して顕在化していた。

上記のような課題によって島民の心的負担が増加した島では「猫を観光活用しない」という判断を住民間で合意を取り、猫を目的とした取材はお断りするという判断をとったことがわかった(表2)。また、上記の島には観光人材や事業が来島者数の増加に対応できず、「猫島現象」の効果が得られていない「事業不足」の課題も顕在化し、判断の要因の一つとなっていることがわかった。人口減少が著しく進む2つの島では「猫資源管理」の負担を減らすことを目的に全島不妊・去勢手術を実施しているが、観光活用に関する判断に関しては2島の対応が分かれた。

表2: 「猫島現象」の影響で顕在化した課題と猫管理や観光活用についての意思決定要因

	猫島現象に対する行政の見解	猫管理や観光活用の意思決定を行った島	意思決定の要因となった事項や住民の反応等		
			旅行者主導の問題	需要対応の問題	猫資源管理の問題
			1. 移住者を巡ってのトラブル 2. 来島者による批判 3. 私有地トラブル 4. ゴミ投棄	5. 飲食店不足 6. 宿不足 7. 糞尿不足 11. その他(乗船トラブル)	8. 餌代・医療代負担 9. 猫増加 10. 糞尿
田代島	●		問題あり	特になし	問題あり
佐柳島	●		問題あり	特になし	特になし
青島	×	● 全頭不妊・去勢手術実施 ● 観光活用しない	問題あり ● 住民の「静かに暮らしたい」という要望	問題あり ● 市として財政基盤が弱く、投資できなかった ● 商店不足が住民生活へのトラブルにもつながった	問題あり ● 人口減で管理する人がなくなった時のことを懸念
相島	×	● 観光活用しない	問題あり ● 観光客の批判による住民の戸惑いの声	問題あり ● 宿の高齢化による泊まる宿の減少 ● 観光産業へのリスクが大きい	問題あり ● 観光客の餌やりで猫が増加し、島の衛生悪化による住民のストレス
深島	●	● 全頭不妊・去勢手術実施	問題あり 「猫の管理体制における批判」	特になし	問題あり ● 人口減少による餌代負担の大きさ
湯島	●		問題あり ● トイレの借用に関する私有地トラブル ● 地域おこし協力隊の介入により改善傾向	問題あり ● 宿の高齢化 ● 飲食店不足	問題あり

4. 「猫島現象」を活用した取り組みや課題対応の工夫

本章では、明らかになった離島の状況のうち、「猫島現象」で顕在化する課題を抱えつつも、離島振興に向けて活用を試みている2つの島の事例を抽出し、関連する観光協会や島内で主に活動に関わるキーパーソンへのインタビューを通して、それぞれの取り組みや連携状況を把握した(図5、図6)。

(1) 外部圧力の課題

深島においては観光協会とA氏で取材対応の際の意思統一を行い、必ず猫管理の取り組みや現状を正しく伝えるようにしたり、島の猫を紹介する「深島ねこ図鑑」にも盛り込み、不特定多数でなく活動に理解あるファンを増やしていく動きを確認できた。

(2) 猫管理の課題

深島では、猫の世話をするための金銭的負担が大きいという課題に対し、猫資源の数を減らすという選択肢を取っている。ただ、青島の事例から極力住民や来島者を巡った揉め事は避けたいため、住民一人一人に合意形成を図り、「島の課題」として行政や観光協会も協力して連携を図っていたことがわかった。また、財源は「深島ねこ図鑑」事業からも一部寄付する仕組みとなり、観光客によって猫

【質問設計の仕方】

「猫島現象」前の様子やポテンシャルを知るための質問項目	①「猫島現象」が起こる前の観光の様子 ②島の住民の特性、猫との関わり方 ③猫が多い理由、言い伝え
「猫島現象」による主体ごとの判断や行動を知るための質問項目 (3章の調査内容の構造を元に)	④「猫島現象」に気づいたきっかけ ⑤具体的に島で起こっていた動向や様子 ⑥主体ごとの「猫島現象」における捉え方 ⑦離島における課題の捉え方 ⑧上記④～⑦を踏まえて行なった取り組み等

【分析の仕方】

1) 時系列に沿って事実とそれぞれの取り組みをまとめる

2) 4つの問題(▲外部圧力の問題 ★生活環境の問題 ●猫管理の問題 ◆事業不足の問題)に関連する話題を抜き出し、どのように工夫して対応しているか確認する

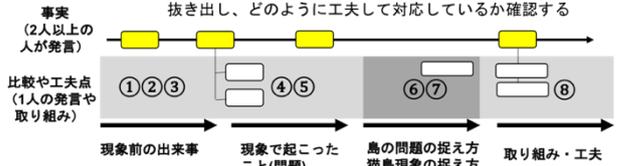


図5 調査分析の手順

管理が支えられる仕組みに転換されている。

湯島においては外部からの猫に関するクレームが来ている中で、実際に猫の衛生管理は課題となっていたが、管理できる存在がない等で管理体制をすぐに組むことができなかった。そこで、地域おこし協力隊で医療関係の専

湯島基本情報

人口(H27)	293人
高齢化率	59%
産業構成	農：19% / 漁：31% 三：51%
県庁からのアクセス	約100分
宿泊施設	4件
飲食店	5件ほど
航路利用者数(H31)	24203人
猫の数	?
特産品	わかめ、タイ、湯島大根、かすみ菜等

出来事	行政担当(市)	観光協会(島)	事業者担当(市)	事業者担当(島)
猫島現象で起こった問題	島の問題として捉えているもの	「猫島現象」の捉え方	問題に対応した取り組み、工夫点	
<ul style="list-style-type: none"> ●猫の衛生管理(遊牧、病気の治療など、住民への声かけ) ★島民の猫観光受け入れのための理解。地域住民の方が観光客に挨拶できたり受け入れられるように。 ●島内の仕事不足、観光の島としてお金の落ちる仕組みを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ●湯島の猫は半飼いな猫での猫の管理は個々に任せざるを得ない ▲猫に関するクレームは観光協会に届いているため、住民に不具合を呼びかけている ●猫島を訪れるお客さんに猫だけでなく他の魅力を推進していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●猫の島ならお客さんが増えたい時に問題が猫にいきかちたが、「お金が落ちることがなかった」という悩みはある意味嬉しい問題 ●猫をメインに活用するより、何かと組み合わせる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●猫の専門知識を有した地域おこし協力隊による健康管理が2019年10月から始まり改善傾向 ●ソア一造成招致(観・地・事) ●島内に資金が落ちる仕組みが創出(観・事) ●島内の方が食費などをやり始め、少しずつお金が落ちる。現在は宿泊4軒ほど、食事の場所も4軒ほどある。 ●2年間かけて市の島活事業(地方創生推進交付金)を使い、映画の放映、ウェディングの誘致、観光体験の組み上げ等を行い、最終的にビジネス化している 	

深島基本情報

人口(H27)	19人
高齢化率	79%
産業構成	漁：100% 兼食業あり
県庁からのアクセス	約100分
宿泊施設	1件
飲食店	1件
航路利用者数(H31)	6008人
猫の数	70匹ほど
特産品	深島味噌

出来事	行政担当(市)	観光協会(島)	事業者担当(市)	事業者担当(島)
猫島現象で起こったこと	島の問題として捉えているもの	「猫島現象」の捉え方	問題に対応した取り組み、工夫点	
<ul style="list-style-type: none"> ▲猫管理に関するクレーム ●猫の健康、衛生状態が悪いという問題 ▲環境、怪我の治療費、年間でクレームがずっと続いていた。 ★空き家などの敷地内に観光客が入ってしまう。ゴミ持ち帰らない問題も ★銀をばらまいて帰ると、ゴミが自まつようになって来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少・高齢化による無人島の危機 ●観光で交流人口呼ぶことは大事だが、深島については関係人口を増やすべき。いきなり移住は難しい。 ●Aさん一人での猫管理における金銭的負担 ●深島安部さん夫婦しか就労できる人がいない。お金を落とす場所が作れていない ●猫を維持していく問題として、保護しない人が増えていない ●猫の問題：猫の飼育の確保、体調管理 	<ul style="list-style-type: none"> ●人が少なくなると、猫の世話をできる人がなくなる ●猫観光だけに頼ってしまうのはリスクがある。猫だけに島にお金が入らない ★深島島民に観光客を歓迎、マナーの問題 ▲意図して猫島にしている猫の島でなくてもいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲メディアから「猫を撮りたい」と声をかけ来た時に、文書の指定を行う(観・事) ▲猫島図鑑の発行を観光協会の事業として行う(観・事) ●4者が結んだ「深島ねこ図鑑」を完成させた(観・事) ●金魚不妊・去勢手術を実施した(市・観・事) ●TNRの補助(島にヒアリング、類似事例の調査、物品の調達や手配) ●それぞれに目標があり、それでも猫の件は共通して深島のためという合意。 ●猫のためというより島の課題が解決するからという理由で補助金があった。収益の一部を猫の管理へ。猫図鑑は一般の方にも手に取ってもらえるように2巻ではデザインなどを工夫している ▲猫図鑑の委託販売場所が広まっていた。猫図鑑に共通したカメラマン等の関係人口が生まれた。 ▲猫グッズやクラファン、猫島図鑑で少しずつ理解ある支援者を増やしていく ●2019年に猫島を起した際にNPOとなり、実際の判断を行なった。実際に住民一人一人に話しし、了承ももらっていた 	

図6 猫島現象を離島振興に活かすことに積極的な2島の状況と取り組み・工夫点

門家を登用し、地域住民の悩みを解決する窓口から始めている。

(3) 生活環境の課題

この2島では、特記すべき対応や工夫点は確認されなかった。

(4) 事業不足の課題

島に就労先がない/猫だけでは島にお金が入ってこないという課題に関しては、深島は観光協会が「島の課題解決」目的で財源を用意し、猫島図鑑という商品開発を行うことができた。また、内容を深島島内の移住者インタビューや味噌作り体験といった情報を充実させ、猫をきっかけに深島の魅力を伝えていく情報発信手段となっている。

湯島では行政が事業を積極的に誘致し、猫というコンテンツを活かした独自性のある企画を打ち出していき、事業化していくプロセスが確認された。

5. まとめ：「猫島」を活かした離島振興に向けての考察

本研究では猫島現象を例として、観光インパクトを受けやすいとされる小規模な離島が地域側の意図と無関係に注目を受けた資源を活かして、離島振興や観光振興をすすめるための知見を得ることを目的としてきた。

本研究で明らかになった実態は大きく次の3点である。まず、「猫島」という言葉がメディア等で認知されてきたことによって、さらに国内の複数の島の猫資源が旅行者によって発掘され多くの観光客が訪れていること。第2に、地域側では、そういった現象に対応した離島振興や観光活用が期待されつつも、「猫島現象」によって顕在化する外部圧力、生活環境の悪化、離島の人材不足、猫資源管理の課題が生じ、一部の島では過度な住民生活への影響を懸念した地域側の意向によって「猫島現象」活用した離島振興を困難にさせている実態がある。第三には、その中でも、一部

の「猫島現象」を肯定的に捉えている島では、島内で管理方針や観光客受け入れの合意形成を行い、島外からの支援も受けつつ他の産業に事業を広げていく動きを確認することができたことである(図7)。

したがって、旅行者主導型の観光を適切な離島振興に向けて活用するためには、この外部圧力、資源管理、事業不足の3つの課題を乗り越えることが必要である。本研究から得られたその方策の一部を最後に記す。その一部は離島振興の一般的課題にも重なる。今後は、旅行者主導型の多様な観光における地域の対応事例の研究を蓄積することが望まれる。

(1) 外的圧力の課題

島の生活様式、資源との関わり方等、それぞれ状況が違う島の資源を「猫島」といったような形で一色単に発掘されてしまう可能性がある。離島側の意図に即した観光行動や離島振興に導くための積極的な情報発信や交流の仕組みづくりが重要となる。

(2) 資源管理の課題

人口減少が進む離島において島内の住民のみでの資源管理が難しくなっているが、思いのあるファンが財源の支援等を行なっている状況が生まれてきている。観光を活かし、住民の思いに共感した島のファンによる島内外様々な形で支援していく仕組みの構築が求められる。

(3) 事業不足の課題

行政等の事業の働きかけによる仕組みづくりや、他の資源と掛け合わせるなどして複合的に島の魅力を造成していくことが重要である。

注釈

1) 猫島現象の盛り上がりが見えるものの一例として、旅行ガイドブック「地球の歩き方」の島旅シリーズで「島旅×ねこ」特集がある(2018年発行)。いくつかの島の猫を目的とした観光の仕方が紹介されている。

参考文献

- ・海津ゆりえ(2013). 本土と離島の関係性を前提とした観光政策に関する研究 -三重県志島を事例として- 日本観光研究学会全国大会学術論文集 28, 109-112,
- ・西川芳昭(2011):「島嶼における農業と観光を結びつける資源管理の組織制度-スコットランド・離島部の比較調査から、観光科学, (3), pp.61-64.
- ・宮崎 耕輔(2015).観光客の過剰な流入による地域住民の外出控えに関する一考察,農村計画学会誌 34(Special_Issue), 231-236, 2015
- ・岡本健 (2012) 旅行者主導型コンテンツツーリズムにおける観光資源マネジメントーらき☆すた聖地「鷲宮」とけいおん! 聖地「豊郷」の比較からー. 日本情報経営学会誌 vol.32, No.3
- ・白柳かさね(2010). 宮城県石巻市田代島における猫観光の地域的背景ー人間と猫のかかわりに着目して

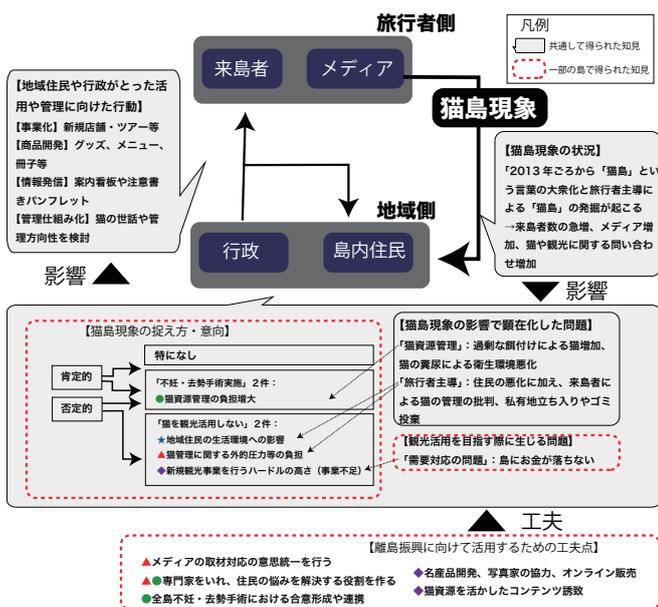


図7 「猫島現象」活用上の課題と工夫点

* 株式会社 地域ブランディング研究所

**東京都立大学 都市環境科学研究科 観光科学域 教授

* Regional Branding Institute Co.,Ltd.

** Prof, Dept. of Tourism Science, Tokyo Metropolitan Univ.